

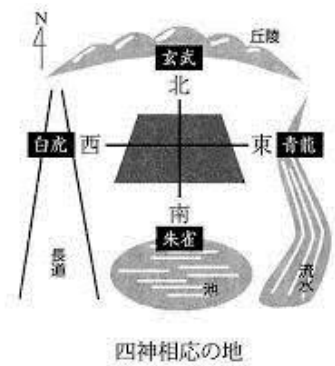
西の菜時記

特集：幕末志士の投宿場～堅小路～

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

令和元年7月31日発行
第53号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会



山口では、東には榎野川・東山(青龍)、南は榎野川と仁保川の合流地
点・姫山(朱雀)、西は堅小路・鴻ノ峰(白虎)、北は七尾山(玄武)とな
り、4つの条件をみたす西日本で京都に次ぐ随一の地相をもった場所だそ
うです。

①山を背にして南に開けた地で、前面に池や河川を臨む「背山臨水」、
②山丘が襟のように、川が帯のように囲んでいる「山河襟帯」、
③風をためて水を得ることが出来る「蔵風得水」、
④四神獸(玄武・青龍・朱雀・白虎)によって四方を守られた「四神相応」
の地が、理想的な場所とされます。

山口のまちは一の坂川が作りだした扇状地にあります。扇状地は上層部
は乾いているけれども、ちよつと井戸を掘ると必ず水が得れるという水に
恵まれた土地です。かつてサビエルが井戸端で布教をしたという話も山口
らしい話です。水の豊かさが良い土地の証だそうです。

かつて榎野川は船が往来して外港へと通じ、町なかに石州街道と萩往還
が交差する交通の要衝でもありました。

風水では、

2019年6月8日(土)、三重大学名誉教授目崎茂和氏を迎え、講演会「京
の風水、山口の風水」を開催しました。

講演会「京の風水、山口の風水」

歴史の町山口を風水で見る

◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

<市民ギャラリー出展作品の紹介>

第9回フレッシュフラワー&ブザーブドフラワーアレンジメント作品展
—フラワーサークル「デンファレ」— 5/11～5/12

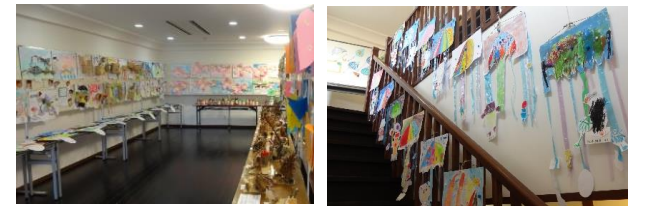


書友会15年の歩み書道展 ～ふるさと山口の文人たちをよびよせて～
—日本習字 書友会— 5/24～5/27



出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。
(お問い合わせ) TEL:083-934-3312

第4回ひろまり絵画教室展～創造性豊かな山口の子どもたち～
—ひろまり絵画教室— 6/22～6/23



<令和元年度 市民ギャラリーの予定>9・10月

月日	時間	タイトル	主催者
9/13 ～16	9時～17時	第3回防長史楽会創作展「和氣藹々～山口で歴史を感じて～」	防長史楽会
10/12 ～14	10時～17時	さかもとみゆき漫画教室作品展	さかもとみゆき漫画教室

生誕103年 おごうさんアルバム



料亭菜香亭の5代目で最後の主人だった「おごうさん」こと齊藤清子さんは大正6年生まれ。父の4代目主人が42歳で早逝した後、昭和13年に5代目主人を引き継ぎました。母・あきさん(4代目の奥さん)がしっかりと裏方を支え、二人三脚で戦前・戦中・戦後から高度成長時代を切り盛りしました。

右の写真は、戦後進駐軍が接収したころの写真です。「～おごうさんの政界裏話～菜香亭紳士録」より、おごうさんの思い出話を紹介します。「進駐軍のことは本当によく覚えていますよ。最初は中尉の大佐、ジープの運転手ら4人が来て、1か月ぐらいうちに滞在したんじやが、私らも進駐軍が怖かったし、向こうは向こうで、日本人が怖かったんでありましょよ。そのうち仲よくなつてね。私は通訳みたいな顔して、ジープに乗せてもらうてどこへでも行きよりましたもんね。



接収されたころの菜香亭



まだあどけなさが残るおごうさんと進駐軍の人たち、和氣藹々。

〈中略〉そのあと米海兵隊のレッドアロー部隊が入って来てねえた。私らの前では、紳士ぶつちよつたが、外へ出たら何しよつたか分からん。そのうちダンスホールとか何とかできて、行きよつたが、ここじゃ緊張して品行方正にしようたですよ。……」進駐軍の人が帰国したあとも、おごうさんはエアメールで文通しており、その手紙がたくさん残っています。

戦後の大変な時代もおごうさんは持ち前のバイタリティーとユーモアのセンスを発揮して、進駐軍の人たちにも気さくに接しておられたようです。



おごうさんの筆まめは有名。エアメールも。

龍脈とは山の尾根の連なりを龍に見立てたものだそう。生気が山の尾根をつたつて流れ込んでいきます。その源は中国の崑崙山であり、そこから朝鮮半島の白頭山を経由して日本列島につながっているそうです。山口は中国山地の裾になる七尾山菜香亭の背後からの龍脈や、五重塔の背後には鳳凰山からの龍脈があり気がながれ込んでいきます。それを西側で留め守っているのが、「西のお伊勢様」山口大神宮がある鴻の峰です。大内氏がみつげ育んだ風水のまち・山口。今も残る風水スポットをまわって、気の流れを感じながらパワーをチャージしてみてください。

【探訪会開催】

翌9日(日)は菜香亭周辺関連スポットを中心に、実際にまちを歩いて目崎講師の解説により、「大内氏の風水」を体感しながら、自然環境や歴史遺産などに秘められた風水の意味を読み解く探訪会を開催しました。

コース 山口市菜香亭→野田神社・豊栄神社→今八幡宮→大内氏館跡・池泉庭園→龍福寺→大殿大路→十朋亭・維新館→一の坂川→山口ふるさと伝承総合センター→堅小路→大内氏館跡・枯山水庭園→築山跡・築山神社・八坂神社→山口市菜香亭

野田神社には舞殿拜殿があり、これがある神社は珍しく、東日本にはほとんどないそうです。今八幡宮の扁額の「八」の字は鳩をかたどっているとの指摘にはじめて気づいたみなさんは驚かれています。お寺の名前に「龍」がついているのは、龍脈の意味であり、力の象徴として使われていること、盃状穴という不思議な造形物についての紹介、大殿大路の直線道の正面に東方便山(宮野方面)の山頂がみられ、この道はまちづくりの基準線になったであろうとの指摘など、興味深い話が聞かれ、参加された方からは「新しい発見が多くあった」との感想をいただきました。今回講演会・探訪会に参加されたみなさんから、今後につながるような意見・アイデアも聞かれました。山口の歴史文化の特色である風水を、観光やまちづくりのための資源として活かし、育てていきたいものです。



山口盆地の鬼門封じであり、一番のパワースポット野田神社にて